

【緑で結ぶ心の輪】



Vol.66 (平成27年6月)

埼玉グリーンアドバイザーの会 広報委員会

〒336-0035 さいたま市南区松本 2-1-13 柴田園芸刃物店内 事務局

TEL: 048-864-2311/FAX:048-864-2355

事務局メールアドレス

s-ga0329@s-greenadviser.org

埼玉GAの会ホームページ

s-greenadviser.org

【研修報告】「新倉ファーム ハーブと野菜の研修会報告」

日時：平成27年5月28日(木)

場所：西東京市 新倉ファーム

講師：新倉 大次郎氏

参加者：21名

この時期には日差しが厳しい中、東京都西東京市の新倉ファームさんでハーブを楽しむ研修会が21名の参加のもと実施されました。説明を頂いたのは専務取締役の新倉大次郎さん、新倉ファームさんは100年を超える歴史があり、大次郎さんも4代目にあたるとのこと。



新倉さんから説明を受け摘み取り



6mにもなる月桂樹の大木

圃場は1.5haながら200品目近いハーブや野菜を生産し、主にレストランや店舗向けに販売されているそうです。まず圃場で栽培されているハーブの説明を受けながら次々摘み取りをさせていただきました。同じハーブでも露地とハウスの両方で栽培されているものもありますが、露地だと雨が降った時に香りが飛ぶのでリクエストに応じて香りが強いハウスものを出荷するそうです。また同じロケットでも2、3日毎に播種をして常時出荷体制を取っているとの事で細かい管理体制が取られていて感心させられました。花が見頃だったコモンタイムでは合わせるハーブによってお国柄表す料理になる話、例えばトマト+タイム→南プロバンス風に又新緑のタイムは野菜に合うそう。レストランシェフに人気があるのは月桂樹で特に香りが強い古葉だそうです。また赤ワインの中にローズマリーを1週間程3、4本漬けておくとコクが出る話や圃場で一番の古株の樹齢35年になるローズマリーは香りに深みがあり、枯れた様に葉がなる年もあれば、元気な葉が出る年もあるそうで、ローズマリーの奥深さの話も教えて頂きました。最後に摘み取ったハーブを持って記念撮影をして解散しました。



ローズマリーの古木の説明



収穫したハーブを持ってポーズ

(記事：矢野 信行)

【2015日本フラワー&ガーデンショウ報告】

今回は25回の記念の年、『はじまる！つながる！花と緑のおつきあい』をテーマに、4月10日（金）～4月12日（日）の3日間、千葉県幕張メッセで開催されました。出展規模は77社、176小間、来場者は50、365人で、天候にも恵まれ、昨年より来場者はアップしました。

本年度は、GA 埼玉が中心となってグリーンアドバイザー特別実行委員会が招集され、企画運営を担当し、委員として中緒理事、豊田理事と杉浦が参画しました。

中緒理事はクッキングガーデンを担当し、「カラフル野菜、7つの色を楽しもう」をテーマに、野菜の端境期という時期ではありましたが、トマト、イチゴ、ナス、キヌサヤ、サニーレタス、スイスチャード、パセリ、ネギ、バジルなどのハーブ類他を展示しました。野菜の説明ツアーは、一回30名がすぐに満員になる盛況でした。

豊田理事は花育ガーデンレッスンを担当。マーガレットとミニバラをメインにした「春を華やかに彩るソレシアバスケット」、オステオスペルマムをメインにした「春を素敵に奏でるスタンドポット」、埼玉の特徴を生かし、埼玉緑の振興センターが勧めている「四季彩マットを使った盆栽風苔マット」の3種の教室をほぼ満席で実施し、来場者から感謝されました。

ショウは、新企画を多く実施しました。子供向けの職業体験コーナーは、「お花屋さん」、「ガーデンデザイナー」、「農家さん」、「セリ人」、「植木屋さん」、「グリーンコーディネーター」、「グリーンアドバイザー」の7つの体験を。これからも園芸に興味を持ち続けて欲しいものです。

第1回ガーデニングコンテストを実施しました。準備期間が短かい中、全国から多くの力作が集まりました。「ハンギングバスケット部門」で31作品、「コンテナガーデン部門」で23作品、「ミニガーデン部門」で9作品。それぞれの部門で、有識者の審査を経て金賞、銀賞、銅賞、奨励賞の決定をしました。GA 埼玉の方の参加もありました。ありがとうございました。



園芸ファッションショーも、身近なグリーンアドバイザーがモデルになり、日頃の活動のファッション（リアルガーデナー）で登場、レッドカーペットを優雅に歩き、多くの見学者から拍手をいただいていた。

埼玉県からはGA 埼玉の会員を中心に、ガーデンレッスンの講師や園芸相談員、イベントのアシスタントとして3日間で伸べ28名の協力応援を得ることができました。

来年は、初めて神奈川県で開催する（パシフィコ横浜で4月22日～24日）ことが決まっています。

(記事：杉浦 啓泰)

【柳下 和之氏（園芸研究家）のコラム 第21回目】

イチョウウキゴケ

水をいれた田んぼは生き物の宝庫になるので
つつい散歩の途中で覗き込んでしまいます。
その中でよく見るウキクサやアオウキクサに
混じって浮いている少し変わった浮遊性のコケ
植物「イチョウウキゴケ」を見つけました。

名前の由来は、イチョウの葉に似た形のコケ植物
で水に浮いて生活が出来ることから、
そのまんまの由来です。

普通のウキクサに混じっているとそんな特別な
植物に見えませんが、水面で浮遊生活をする変り者
のコケ植物はこのイチョウウキゴケが唯一で、分類
も一属一種と、なかなかどうして珍しい植物です。

しかも水陸両用で水を張っている時は浮草型に、
水が無くなると地面に張り付き陸生タイプに変化
する臨機応変さにはこの植物の逞しさを感じます。

しかし近年は除草剤の影響なのか、田んぼの圃場整備の影響なのか数を減らしており、準絶滅危惧種に
指定されているそうなので生態や分類だけでなく出会いも珍しい植物になりつつあります。

人の生活に寄り添う植物は身近すぎて絶滅とは無縁のように見えますが、人の生活スタイルを変えてし
まうだけで脆くも絶滅してしまう危険をはらんでいます。

遠くの大自然より、まずは身近な自然から関心を寄せることが大事かなと思います。



【当会の今後の研修会予定】

7月4日（土）『植物園探訪・山野草の研究 XI』 川口グリーンセンター見学

講師：柳下和之 氏（埼玉GAの会 理事）

歩く植物図鑑と言われるほど植物の博識ぶりは素晴らしい方です。

この研修会は大変好評で11回を数えています。日頃の疑問も解ける一日にしてみましょう。

8月5日（水）『花と緑のトレンド・舞台裏』 ～肥料メーカーの現場から～

場所：浦和コミュニティセンター 午後6時30分～

講師：枝元 正樹氏（ハイポネックスジャパン）

この研修は夜行う事で参加者が多いのが特徴です。

今回は、肥料メーカーの開発に係る苦労話やエピソードなど、盛り沢山の話が期待できます！

9月15日（火）『両神山麓 花の郷 ダリア園見学会』

両神山（りょうかみさん）は秩父郡小鹿野町と秩父市の境目にあり、秩父山地の北端にある山。
その山麓にあるダリア園で、関東地方最大級、約10,000平方メートルの敷地で300種類・5,000
株のダリアが咲き誇る。その種類の多さに驚かされる。周辺はのどかな感じで山に囲まれ緑が多
いせいか、よりダリアの色合いが鮮やかに感じさせる。 秋の一日をお楽しみ下さい！

【埼玉・花の名所めぐり：古代蓮】



“行田の蓮”が見頃を迎えています。開花の時間が6時頃からと早いです・・・

蓮の開花期間：6月20日～8月2日 行田蓮まつり：7月12日(日)

同時に“田んぼアート”が古代蓮会館展望室より見られます。見頃は7月中旬～10月中旬です。



原市沼は上尾市と伊奈町の境に位置する広大な沼地で、埼玉県の指定史跡である伊奈氏屋敷跡を望み野鳥や湿性植物の宝庫となっています。原市沼の古代蓮は、昭和46年行田市の焼却場建設の際に土中より掘り起こされた蓮の種子が自然発芽しみごとな花を咲かせ、その種を譲り受け毎年素晴らしい花を咲かせています。見頃は7月中旬～8月初旬の午前6時～9時です。

【編集後記】

今年は、蚊が媒介するデング熱や韓国で大きな社会問題となっている中東呼吸器症候群（MERS）コロナウイルス感染症が心配です！特に、デング熱は、蚊が媒介する感染症です。朝夕の園芸作業には、蚊に刺さされないように長袖、長ズボンを着用し、肌の露出部分には虫よけ剤を塗るなど注意が必要です。



ヒトスジシマカ

また、火山の爆発や予測しがたい地震現象、集中豪雨や竜巻など異常な自然現象が多発しています。うっとうしい季節が続きます、会員の皆さまにはお身体を大切にご活躍ください！

当会の研修会は、年々充実してきました。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

新しいアイデアやご意見などございましたら積極的ご提案ください！お待ちしております。